

災害事例

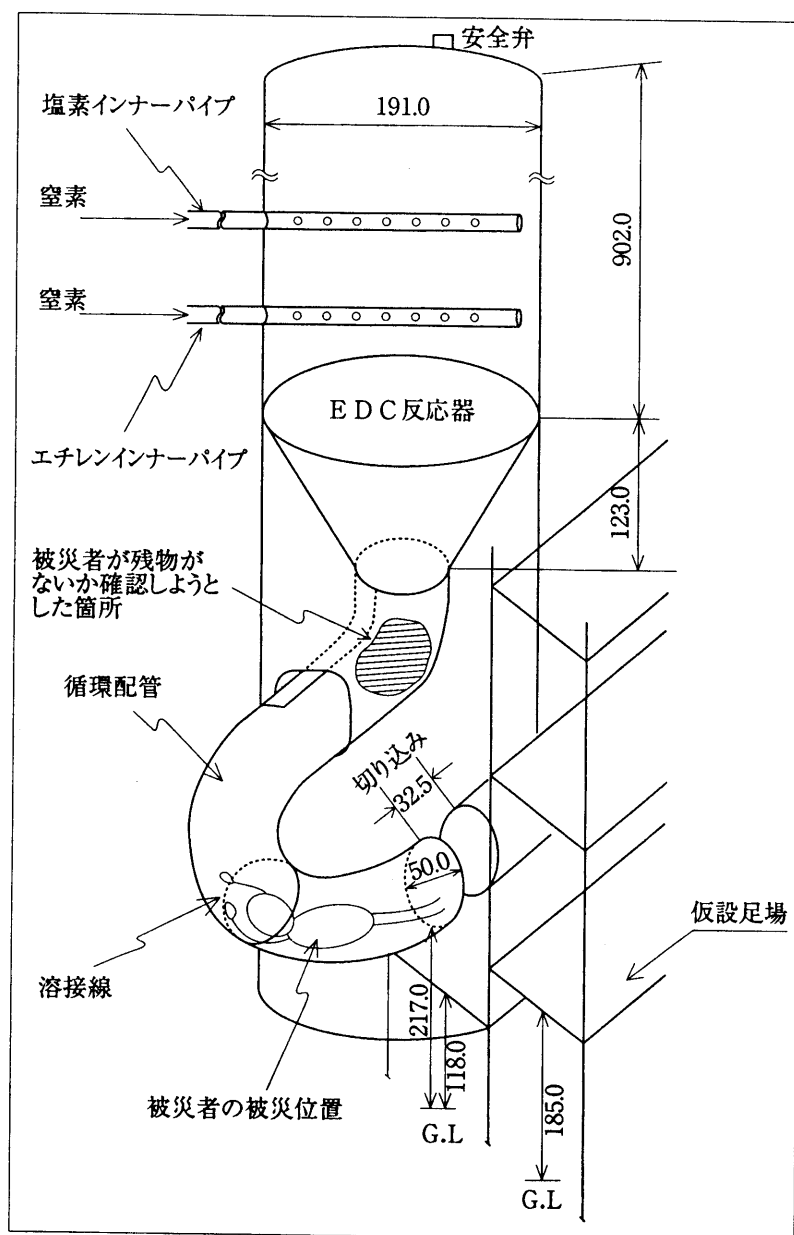
切断してできていた切込み口に短管を取り付けるに際して、過去に循環配管内の残物が後のプラント運転の大きなトラブルとなっていたことを踏まえて、被災者は、切込み口から循環配管内に入り込んで残物がないかどうかを確認することとした。

被災者は、循環配管内に入る前に、切込み口から反応器に向かって150cm付近の酸素濃度を測定した。ただし、測定結果の記録はとっていなかった。後の被災者の記憶では、酸素濃度は18%以上であり、警報は鳴らなかったとのことである。

被災者は、EDC 反応器の下の配管の湾曲部が目視できる位置まで入ることとし、酸素濃度の低下

が認められた際は直ちに外に出られるよう酸素濃度測定器を所持するとともに、塩素中毒を防ぐためにハロゲンガス用防毒マスクとゴーグルを着用の上、切込み口から反応器に向かって、頭から膝下約10cm (切込み口から約130cm) まで這うようにして循環配管内に入っていったところで気を失ってしまった。周囲で別の作業を行っていた2名の労働者が、被災者の異常に気付き、直ちに配管から引き出して救急通報し、被災者は病院に運ばれた。

循環配管内は、循環配管の切断の際の火花による引火を防ぐため、災害発生前々日の午後8時から災害発生前日の午前10時まで、A化学工業㈱に



被災時の状況 (単位cm)

